果汁情報　2021年４月

日進通商株式会社

りんご

（1） 中　国

2020/21 クロップのオファー大口契約は終了し、スポットオファーとしては、低酸度であれば供給は可能（確認条件）。 酸度 1.6％～1.8％帯の供給は次期クロップからとなります。

このコロナ禍においても、米国向けの中国りんご果汁は、米国航路のコンテナを確保し積極的に輸出している。

（2） ヨーロッパ

ポーランド：　４月下旬の霜の影響でチェリー、ベリー類などのソフトフルーツに被害が出ましたが、リンゴ農園にはあまり影響はなかったようです。 ドイツ、オーストリー諸国からリンゴの買いが入っているものの、価格が安く農家と冷蔵倉庫のオーナーは販売を渋っている状況。 農家は開花時期の遅霜の影響を待っている状況。

トルコ： トルコのリンゴ生産量は、良好な生育条件に伴い、430 万トンの見通し、加工用の果汁は好調な売れ行きでほぼ完売状態です。

(3)南米ブラジル

昨年のブラジルの生産地の天候は順調でリンゴの生育には良好でしたが、収穫量は記録までには至りませんでした。 リオグランデスル州（南端）におけるリンゴ収穫量は 550,000 トンで昨年よりも 5 万トン増加しております。一方で、バカリア州では 24～26 万トンと予想されております。 農家へのリンゴ原料の価格は BRL1.75 ～1.85/kg (US$0.31)と少し割高。

(4)チリ

2月の豪雨はトマト生産地域への影響が大きかったものの、りんご生産地域への影響はあまりなかったようです。

(5)ニュージーランド

リンゴ生産量は 583,000 トンで、輸出リンゴは 39 万トン、加工用には 12 万トンの予想です。 リンゴ農園では太平洋諸島からの季節労働者が不足しており、厳しい状況が続いている。

柑橘オレンジ

世界全体における 2020/21 年度の生産量は、ブラジル、メキシコの増産分が米国の減産分を上回り、前年度に比較し 10%増となった。

オレンジ果汁生産量（65bx）　　千トン

	2018/19	2019/20	2020/21
ブラジル	1,324	965	1,157
米国	329	297	250
メキシコ	220	190	200
ＥＵ	105	82	88
南アフリカ	63	49	38
中国	40	31	31
オーストラリア	16	16	21
その他	18	16	18
合計	2,115	1,646	1,803

ブラジル：　2020/21は生果の増産に伴い加工仕向量が増加しています。

米　国：　生産量が 16%減少しており、25 万トン足らずが果汁向けで、不足分については、ブラジル、メキシコからの輸入を増加している。

メキシコ：　昨年の干ばつによるフルーツの加工仕向量の減少後、反転増加している。

グレープフルーツ

米　国：　フロリダ産のグレープフルーツのシーズンはすでに終了。 次期クロップの生育状況は今のところ順調ではあります。　＊テキサス州南部を襲った 2 月の寒波被害状況と見通しは、もう少し先になりますが、 グレープフルーツの木に影響が出ていますので、 収穫量は減少するものと思われます。

メキシコ：　搾汁シーズンは 1 月に終了、ピンク系はほぼ完売。 収穫量は 495,000 トンで国内生鮮の消費としては 38 万トン（77%）、加工には 9 万4千トン（20%）が仕向けられます。

南アフリカ　フルーツ　国内生鮮消費量は、生産量の増加及びCOVID-19 に対する免疫力向上に資するビタミンCの利点に伴い、前年に比較し千トン増で、9 千トンが見込まれます。　加工仕向量は生果の輸出、消費の増加に伴い減少し約 92,000 トンの見通しです。

ブドウ

(1)米　国

2020/21 年の WELCH コンコードグレープの収穫量は 16％減少（東部、西部地区）、原料価格は上昇、西部のワシントン州では近年、収益性の高いホップやワイン用グレープなどの作物に転向。

一方で、ワシントン州の生産者は、コロナ禍で果汁、ジャム、ゼリーなどの需要が伸び、高値で取引されている為、気をよくしている模様。

(2)ブラジル

2021 年クロップは今のところ順調でシーズンも終了。 おそらく対前年比 10％程度の増産で、米国、中国への輸出は好調。

(3)アルゼンチン　ホワイトグレープ

2021 年は昨年 10 月に主要産地であるメンドーサ地区に寒波が有り、2021 年の収穫数量は例年よりも 10％～15％は減産予定。 繰り越し在庫は薄い。

(4) チリ

2021 年 1 月下旬の大雨（70～100mm）と強風によりぶどうに大きな被害を受けており、最も大きな品種（赤ブドウ）が、バルパライソ地区とオーヒギンズ地区のブドウ畑において影響を受け半数被害か？　またトンプソンなどの白ぶどうの実が割れたりする被害も出ている。

(5) スペイン

スペインの 2020 年のホワイト・レッドグレープともに冬場の降雨量も多く、収穫は品質ともに良好でした。 特に、主要産地のカスティーリャ・ラ・マンチャ（マドリッド南部）は増産で、南米アルゼンチンのホワイトグレープが不作であった為、スペイン産のホワイトGJの需要は高まっている。

(5)南アフリカ

2020/21 年のぶどう生産量は33万トン（対前年3％増）、 南アフリカでは生食用の輸出数量が多く、約30万トンが見込まれている。　栽培面積は21，500ha，北部の州ではワイン用から生食用への改植がすすんでいる。

主な品種：Crimson Seedless（赤）19％，Prime（白）8％，Thompson Seedless（白）4％．Sweet Celebration（赤）4％　等

レモン 🍋

アルゼンチン🍋

2021 年収穫は 3 月から始まっていますが、 昨年の 6 月の雨量不足と高温により、2020 年より 44 万トン減少し、約 103 万トンと予想されます。　このうち加工には約 73 万トンが仕向けられます。 アルゼンチンの生果の輸出量は約 19 万トンと昨年よりも 25%減少します。

スペイン🍋： EU では最大の生産国であり 2020/21 年は 103 万トン（前年比 11%増）の生産量で、世界ではアルゼンチンに次ぐ生産国です。 生鮮レモンでは世界第一位の輸出国。 主な生産地は Murcia 州 Valencia 州、Andalusia 州、Malaga 州と南部の地中海沿岸。

イタリア🍋： EU 内では 2 番目の生産国で、49 万トン（前年比 10%増）で、シチリア島が 88%の生産量を占め、本土の南部カラブリア州が次の生産地。

ブラジル🍋

2020 年度の生産はすでに終了している。

パインナップル🍍

タイ 🍍

今年の夏実のパイン果汁製造は 5 月にはほぼ終了するようで、原料が少なく例年よりも早い。 またミャンマーからの労働者の受け入れができなく製造コストも高くなっているようです。 パイン缶詰の 2020 年の取引高は前年よりも 6%減の 88 万トンですが、金額ベースでは 19%増えております。　一方で輸出量は前年よりも 25%減少しており、29 万トン。

インドネシア🍍

長期の干ばつにより前年よりも収穫量は減少している。 パイン缶詰の輸出は 18.6 万トンと安定しており、EU が主な市場で、最近は米国向けが伸びている。

コスタリカ🍍

濃縮パイン果汁およびNFC果汁の輸出がここ数か月、伸びております。 濃縮果汁では 38,140 トン（2019 年の 25,125 トン）、NFC果汁は 135,540 トン（2019 年、137,550 トン） 、これは昨年のタイのパイン原料の供給不足とコンテナ船の不足、海上運賃の高騰による原因です。

昨年 8 月～10 月のNFC果汁の輸出減はコロナ禍によるヨーロッパ諸国のロックダウンの影響と思われる。

南半球のプルーン収穫量の推移

2019 年～2021 年のプルーン 3 年間の収穫量は天候の不順により大幅に減少しております。チリは大量の雨により、例年に比べ実の落下率（約 20%）、カビなどの品質劣化（20%）、糖度不足（10%）により 35,000 トン近くまで減少。

国名　　年度	2019	2020	2021
チリ	63,000	55,000	35,000
アルゼンチン	18,000	15,000	12,000
オーストラリア	3,000	2,500	2,500
南アフリカ	1,000	500	500
合　計	85,000	73,000	50,000

北半球の収穫量（米国、フランスの 2 大産地）も減少しており、相場としては上げ基調です。

2021 年度の予想としては、米国カリフォルニア州が 45,000 トン、フランスは 33,000 トン、

他は約 5,000 トン、合計 83,000 トンが予想されます。

バ ナ ナ

バナナは身近なフルーツの中でも低カロリーで、人の体に欠かせない栄養素がバランスよく含まれており、アスリートやダイエット中の人に人気のフルーツです。 またポリフェノール類も含まれており、熟したバナナほど高くなります。

低カロリー： 1 本（100g）あたり 86kcal，ごはん（150g）あたり 252kcal、パンは 208kcal

カリウム： ナトリウムを排出し、血圧を正常に保つ

バナナは360mg、人参 320mg，イチゴ 170mg

葉　酸： 水溶性ビタミンB群にふくまれ、女性の体に良い

バナナは26μg，人参 22μg，りんご2μg

マグネシウム： 骨の正常な代謝を助ける（バナナは 32mg，カボチャ 15mg，イチゴ 13mg）

＊チキータバナナピューレ

チキータ社にて使用されております農薬（ピリプロキシフェン）におきまして、欧州では 0.7ppm，米国では 0.2ppm の基準が設定されておりますが、日本におきましては、現在基準値がなく、一律基準（0.01ppm）の適用となっております。

日本の生鮮バナナより同農薬が検出された事例を受け製造元にて調査、分析を行いましたところ、日本向けの基準値を超えるロットが発見されました。

当該農薬はバナナの生育過程におきまして、生育の中期から収穫にかけてバナナの房に被せる保護シートに塗布されているものです。 この保護シートはコスタリカのみならず、コロンビア、グアテマラ、パナマといった中南米域のバナナの生育において広く使用されております。